

## 障害概念の再生産からの逃避

- 企画： 楠見友輔（日本学術振興会特別研究員 PD）  
司会： 楠見友輔（日本学術振興会特別研究員 PD）  
話題提供： 辰己一輝（大阪大学人間科学研究科）  
話題提供： 楠見友輔（日本学術振興会特別研究員 PD）  
話題提供： 石渡美穂子（立教大学大学院文学研究科）  
指定討論： 石黒広昭（立教大学文学部）

### 企画趣旨

本シンポジウムの目的は、障害に関する問題を新しい方法で思考するための議論を行うことである。障害概念の理論研究は、20世紀末の社会モデルの紹介以降活発になされ、2000年代以降にはフェミニズム、ポスト構造主義、現象学などの受容により、障害を社会構築物とみる立場が生じた。障害概念についての諸理論は、障害についてのステレオタイプの思考を解消し、障害者の権利擁護のための社会変革を促した。しかし、障害についての存在論的・認識論的な問いに答えることは、現実には生じている障害についての複雑な問題を単純化することと表裏一体の関係にある。また、特定の障害概念に依拠して障害に関する研究をすることは、既存の概念の再生産に陥り、障害当事者の声や経験はそのための道具として使用される恐れがある。これに対して、現実には起こっている障害（者）に関わる問題は、静的な構造に還元し得ないダイナミックな特徴を有する。本シンポジウムでは、障害概念を固定化するという再生産を防ぎながら、どのように障害について新しい方法で思考することが出来るかについて、オープンエンドに検討する。

### 話題提供 1：辰己一輝（大阪大学人間科学研究科）

哲学を専門とする発表者のこれまでの研究成果（辰己 2020, 2022）を踏まえて、近年の障害学における新たな諸動向を紹介する。とりわけそれら諸動向を捉えるための一貫した視座として、障害者ごとのアイデンティティの多様性や変化する経験へと応答するために、障害学が依拠する諸前提それ自体もまた変化し続けていくという相互循環的なプロセスに注目することで、既成の「障害」概念の再生産から逸脱していく障害学のあり方を素描する。

- ・辰己一輝（2020）2000年代以降の障害学における理論的展開／転回：「言葉」と「物」、あるいは「理論」と「実践の狭間で」. 共生学ジャーナル, 5, 22-48.
- ・辰己一輝（2022）「社会モデル」以後の現代障害学における「新たな関係の理論」の探求. 思想, 1176, 46-54.

### 話題提供 2：楠見友輔（日本学術振興会特別研究員 PD）

自身が執筆した論文の再考を行う。これまで、障害のない子どもと交流をした障害のある子どもへのインタビューを実施し、現象学の立場から協力者の語りを分析する研究を行ってきた。それらの研究では、アイデンティティという概念が筆者の問題関心と分析の中心であった。しかし、人間を存在論的・認識論的に首尾一貫した存在とみるアイデンティティ概念を用いることで、存在の柔軟さや複雑さを捉え損なってきた恐れがある。話題提供では、ドゥルーズとガタリの生成変化という概念に注目し、異なる視点から障害のある子どもの語りを讀んだ時に、どのように障害を新しく考え直すことができるかを検討する。

### 話題提供 3：石渡美穂子（立教大学大学院文学研究科）

批判的障害学は、「誰もが入ることのできる」カテゴリとして障害を捉える。これまである人々が障害者になっていく過程の政治的・社会的分析を通して、障害カテゴリの危うさを露呈してきたが、その危うさこそが実践においては障害者アイデンティティに対する攪乱的な契機になると考えられる。実践から立ち上がる障害者アイデンティティの攪乱のための人々の「戦術」を明らかにすることが、結果として障害概念を固定化し、再生産する思考から逃れるための視座を与えてくれるのではないだろうか。本発表では、実践におけるアイデンティティの攪乱を捉える方法論としてどのようなものが考えられるかについて議論したいと考える。

### 指定討論：石黒広昭（立教大学文学部）

障がいに対する個体中心主義的な語りが批判されて久しい。その拠り所とされるのが言説、表象の分析に代表される社会構成主義である。障がいを語るこの「個体—社会」の二項図式から逃れることはいかにして可能なのか。この二項図式は障がいの「理解」の枠組ではあるものの、さまざまな「実利」を生み出してきたことも事実である。それ故、その逃避には新たな理解枠組の提示だけでなく、理論の「実用性」も問われることになる。

## **Moving Away from the Reproduction of the Concept Regarding Disabilities**

Yusuke Kusumi (Japan Society for the Promotion of Science Research Fellowships for Young Scientists PD), Moderator

Ikki Tatsumi (Graduate School of Human Sciences, Osaka University), Presenting Author

Yusuke Kusumi (Japan Society for the Promotion of Science Research Fellowships for Young Scientists PD), Presenting Author

Mihoko Ishiwatari (Graduate School of Arts, Rikkyo University), Presenting Author

Hiroaki Ishiguro (College of Arts, Rikkyo University), Discussant

Language: Japanese